

テーマ：どんな時も主の御手に自分を委ね続けること

●ヤン・フス(1329-1384)

「教皇は教会のかしらではないし、枢機卿も教会のからだ全体ではない。ただキリストだけが教会のかしらなのだ。」(デ・エクレスシア)

「ヤン・フスが火あぶりの刑に処せられたとき、その儀式を執り行った司教は、最後に冷ややかな言葉を残した。『そして今、私たちはあなたの魂を悪魔に委ねます。』 それに対し、フスは穏やかに答えた。『主イエスキリストよ。私の霊をあなたの御手にお委ねします。あなたが贖ってくださった私の霊を、あなたにお委ねします。』」

※使徒 7:59-60

「こうして彼らがステパノに石を投げつけていると、ステパノは主を呼んで、こう言った。「主イエスよ。私の霊をお受けください。」そして、ひざまずいて、大声でこう叫んだ。「主よ。この罪を彼らに負わせないでください。」こう言って、眠りについた。」

※ルカ 23:46

「イエスは大声で叫んで、言われた。「父よ。わが霊を御手にゆだねます。」こう言って、息を引き取られた。」

○ダビデの信仰：苦難の中で主の御手に委ね続けた二つの理由

1. _____にのみ助けがあると確信していたから(1-8)

※詩篇 25:2-3

「わが神。私は、あなたに信頼いたします。どうか私が恥を見ないようにしてください。私の敵が私に勝ち誇らないようにしてください。まことに、あなたを待ち望む者はだれも恥を見ません。ゆえもなく裏切る者は恥を見ます。」

「母親が友人と話をしているときに、母親の膝の上に座っている小さな子どものことを思い出します。母親の注意を引こうと何度も会話を邪魔した後、子どもは手を伸ばして母親の顔を自分の顔に近づけ、最も悲しげな声で「お母さん、どうして私の話を聞いてくれないの」と言うのです。この詩篇の著者の訴えは、即座に行動を起こさなければならない絶望的な状況に対して、神様の最大限で細心の注意を求めるものなのです。」(ジェラード・ウィルソン)

「(ここでダビデはこのように言ったのでしょうか)『これまでもあなたは私の贖い主であり、今もあなたは私の贖い主です。あなたは変わらないからこそ、私はこの災難からの救いを確信しているのです。』」(スチュワート・ペローン)

※ヨハネ 10:17-18

「わたしが自分のいのちを再び得るために自分のいのちを捨てるからこそ、父はわたしを愛してくださいます。だれも、わたしからいのちを取った者はいません。わたしが自分からいのちを捨てるのです。わたしには、それを捨てる権威があり、それをもう一度得る権威があります。わたしはこの命令をわたしの父から受けたのです。」

※イザヤ 53:10

「しかし、彼を砕いて、痛めることは主のみこころであった。」

2. _____にのみ助けがあると確信していたから(9-22)

●ダビデの味わっていた四つの苦しみ

1. 身体的/肉体的な苦しみ(9)
2. 精神的/感情的な苦しみ(10a)
3. 罪悪感による霊的な苦しみ(10b)
4. 人間関係における苦しみ(11, 13)

※ローマ 8:28

「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」

「もし私たちが、全ての時は神の御手の中にあると信じるなら、私たちは天の父から大きなことを期待するようになるでしょう。困難に陥ったとき、私たちはこう言うはずです。『私は今に神の不思議な業を目の当たりにし、ご自身に信頼する者を必ず助け出してくださることを改めて学ぶこととなります。』」(チャールズ・スポルジョン)

※民数記 6:25-26

「主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。」

○まとめ(23-24)